

シングリズムからの「回復」空間としての旅行 :独身婦人連盟機関誌における 1970-1980 年代の旅行記の考察

瀬川 美和

本稿の目的は、独身女性同士の旅行空間における、エンパワメント経験の実態を明らかにすることである。その際、1967 年に結成された独身女性の団体である、独身婦人連盟（以下、独婦連）の機関誌に掲載された旅行記を分析対象として選定し、分析範囲は 1970-1980 年代に限定した。

女友達との逃避旅行 Girlfriend Getaways（以下、GGA）と呼ばれる女性同士の旅では、ひとり旅につきまとうリスクが回避されるだけでなく、家庭におけるケア役割といった日常からの「逃避」や、「女友達」との平等な関係性の構築、また男性の不在による解放感など、さまざまなエンパワメントの経験が得られることが、先行研究では明らかにされている。だが GGA の先行研究では、GGA 内のグループ構成や女性間の差異に関して、検討不足が指摘されている。また、女性が同質的な存在でないことについてはすでに多くの研究があることから、女性の社会的属性に注目しながら GGA を検討することで、新たな知見が得られる可能性がある。

したがって本稿では、先行研究においてほとんど見つけることができなかった、中年独身女性に限定された GGA に焦点を当てた。さらに中年独身女性は、結婚という社会の規範的「スケジュール」から「逸脱」した周縁的存在であり、その日常は、独身者に対する差別や偏見といったシングリズムにさらされていることが指摘されている。またシングリズムによる経験は、独身者のジェンダーや年齢により異なることが明らかにされており、独身女性の場合は「賞味期限切れ」というように、その若さを否定されたり、老いを強調されたりする。そのような周縁的存在である中年独身女性にとって、女性のエンパワメントの場である GGA での経験とはどのようなものかを検討することで、既存の研究とは異なる GGA の側面を指摘することができると考え、分析対象として独婦連を選定した。

分析範囲を 1970-1980 年代に限定した理由としては、①資料による制約に加え、②結婚に対する規範の強さ、③旅の消費者層の多様化とその歴史における中年独身女性の不在の、3 点が

挙げられる。とりわけ、本稿における分析では特に②が重要だ。戦後日本の高度経済成長を支えるために、「女性は家で家事・育児に専念すべき」といった性別役割分業が家庭に持ち込まれ、さらに 1975 年には既婚女性の約 6 割が専業主婦となり、戦後日本において「主婦」は、女性の理想のライフスタイルとされていたためだ。このような時代において独婦連会員は、「女性は家で家事・育児に専念すべき」といった規範から、「逸脱」した存在だったといえる。つまり、1970-1980 年代における独婦連会員らの日常は、シングリズムの影響下にあった可能性が極めて高い。そのため、本稿では分析範囲を、1970-1980 年代に設定した。

独婦連機関誌における旅行記を整理した結果、1970-1980 年代において、宿泊を伴う旅行記は 110 件であり、そのうち会員同士の旅行に関する旅行記は 50 件であった。それらを分析した結果、「友情・親密性」、「会話」、「自由」、「若さ」、「美しさ」、「身体」といった 6 点に、会員同士の旅行に関する描写の特徴が集約された。さらに、それらの点と先行研究との比較により、会員同士の旅行に関する旅行記にみられた、「美しさ」、「美しさ」と結びついた「若さ」、「若い」との戯れといった記述については、中年独身女性に限定された GGA の特徴である可能性が高いことが明らかとなった。

さらに本稿では、会員同士の旅行にみられた、「美しさ」、「美しさ」と結びついた「若さ」、「若い」との戯れといった点に関して、中年独身女性の日常を覆うシングリズムといった観点から検討した。日常とは異なるジェンダーダイナミズムが指摘されている GGA での経験は、日常におけるジェンダーダイナミズムのなかでの経験と、両輪をなすものであると考えたためだ。前述したように、中年独身女性の日常におけるシングリズムは、彼女たちの「若さ」を否定し、「若い」と結びつける。そのような傾向は、日本における中年独身女性に対する蔑称「オールド・ミス」からも、読み取ることができる。自らの「若さ」を否定され、「若い」と結びつけられる日常にあった／ある中年独身女性にとって、自らと同じ中年独身女性が集まる旅先において、「美しさ」や「若さ」を互いに指摘し合い、また「若い」と戯れることは、シングリズムにより与えられた自己に対する否定的な評価からの「回復」を促す行為として、捉えることができるのではないか。

本稿では、1970-1980 年代の独婦連機関誌における旅行記を分析したことで、中年独身女性同士の旅行には、シングリズムからの「回復」空間としての側面がある可能性を明らかにした。だが本稿では、ひとり旅や男性を含む団体旅行といった、他の旅行形態との詳細な比較を行っていないため、旅行形態により生じる記述の差異に関しては、より丁寧な分析が必要であると考えます。そのため、今後は、他の旅行形態に関する旅行記の記述との比較を通じて、会員同士、つまり中年独身女性同士の旅行経験の特徴をより詳細に把握し、その運動的意義を論じることを目指す。